

Field/分野: language acquisition, idioms, metaphor

比喩的表現(英語)の解釈に及ぼす母語(日本語)知識の功・罪¹⁾Positive and negative effects of mother tongue knowledge
on interpretations of English figurative expressions

東 眞須美 (神戸芸術工科大学)

1. 研究の背景と目的

日常生活において、慣用表現、諺、日常語が比喩的に用いられる場面がよくある。そのような場合、人は理解(解釈)のストラテジーとして、(有・無意識的に)メンタル イメージを活性化させたり、アナロジーを応用したり、母語知識に頼ったりする。筆者は外国語としての英語(EFL)学習者の場合、比喩的表現の理解と運用において獲得している語彙力(vocabulary knowledge)の作用が大きいこと、そして語彙力が意味の拡張(figurative extension)に繋がり、幅広い意味の理解と運用に利用される様相を検証した(Azuma, 2005)。その研究から発展したのが本研究である。英語のイディオムや比喩的表現の習得において、意味や使用法を「覚える」という学習法が一般的だと思われるが、他に、何か有用な手立てはないものか、また、母語知識をマイナスと捉えるのではなく、プラス指向で活用する手立てはないものかなどが本研究の素朴な出発点となった。この観点から、比喩的表現の理解に母語知識がどのような作用をしているか、母語知識が英語による表現の理解の手助けとなるかどうか、を調べた。勿論、母語知識に基づく言語知識や文化背景を他言語の理解や運用に応用することには功・罪両面があると思われるので、本発表では、その功罪を念頭に置き、どのような種類の表現がどのような解釈の様相を示すのか、それは何故か、理解の分かれ目、あるいは、功・罪の別れ目はどこにあるのか、解釈と使用において功と罪で留意すべき点は何か、などに焦点を当てる。

2. 研究方法

調査方法

比喩的表現・イディオムの考察(Lakoff & Johnson, 1981; Gibbs, 1980; Charteris-Black, 2002; Low & Littlemore, 2006, 山梨, 2000; 楠見, 2001; 辻, 2002 等)を参考にして、筆者独自の Metaphor-Cognition Test(以後、M-Cog T)を考案し調査に用いた。そのテスト項目の概観は次のとおりである。比喩的表現の特性(メタファー特性)を考慮して、次の4グループから成るテスト項目計40を選定し、被験者全員にペーパーテストを実施し、量的調査を行った。うち数十名に面接調査を実施、解釈に用いたストラテジーや思い描いたメンタル イメージ等を聞き取る質的調査を行った。

M-Cog T (a): 日本語英語間(以後、日英間)で概念基盤を共有し言語表現類似(similar/same wordings with shared concepts): 15項目。例: He is my *right arm*

M-Cog T (b): 日英間で言語表現類似、意味・概念異(similar/same wordings with different concepts): 3項目。例: to *come to a head*

M-Cog T (c): 英語概念基盤(English Origin): 10項目。例: to *kick the bucket*

M-Cog T (d): 日本語概念基盤(Japanese origin): 12項目。例: You and I *are united with a red thread*

テスト項目の提示法: 単独(語句レベル)提示と文脈に埋め込み提示。

9月5日(土) 9:00-10:00 OTH 4 C31

被験者：日本人英語学習者(Japanese learners of English, i.e., JNSs, 以後、JNSs)：147名、内、面接聞き取り34名(*本発表では被験者JNSsのデータに焦点を当てる)。

英語母語話者(English native speakers, 以後、ENSs)：100名(American, Australian, British ENSs)、内、面接聞き取り56名。

採点者：(メタファーを研究する)日本語母語話者と英語母語話者、計2名。

採点法：項目ごとに正答率を計算、即ち、ある項目に全員が正解するとその項目は100となる。

分析方法：分析では次の(1)(2)の検討を経て、最終的には回答者の母語知識が解釈にどのような影響を及ぼしたか、を考察した。

(1) 応用言語学的・認知言語学的側面：回答者が解釈に用いたストラテジーを、(母語知識を含む)スキーマ的(schematic)な側面、ネットワーキング(networking)、メタフォリカル マッピング(metaphorical mapping)、アナロジー(analogical reasoning)の観点から分析。

(2) イディオムの特性を考慮：テスト項目の構成要素内で解釈においてその部分が全体の意味の類推に繋がったかどうか、を idiomaticity or idiom decomposability (イディオム性、部分-全体の関わり、マッピングの「もと」と「さき」への関わり)の観点から分析。

3. 結果・考察

発表では結果を次の5点に集約して論じる。その1：M-Cog T (a)のうち、概念基盤・言語表現ともに共有の項目は正答率が高い、JNSsには多少バラツキがある。その2：M-Cog T (b-d)では、JNSsは日本語母語知識の、ENSsは英語母語知識の影響が特に顕著である。その3：イメージのはっきりした表現は正答率が高い、ただし、母語知識の影響が見られる。その4：全ての項目の理解に母語知識の利用が見られ、母語知識・スキーマが活性化されている。ただし、これらには功・罪両面がある。その5：特に注意すべき項目はM-Cog T (b)の項目であり、日英間で言語表現類似、ただし、意味・概念が異なる項目である。発表ではそれぞれの項目グループごとに回答者の思い抱いた(メンタル)イメージや調査に表れたデータなどを示して結果を議論する。

母語が学習言語の理解や運用に及ぼす影響 (language transfer: Brown, 1980; Selinker, 1972 他、高橋, 1999, 2000、他) にプラス面とマイナス面があるとされるが、外国語としての英語学習者にとって母語の影響は避けられない。全面否定でなく、効用というプラス面も視野に入れて功・罪を考える。

主要参考文献

- Azuma, M. (2005). *Metaphorical Competence in an EFL Context*. Tokyo: Toshindo Publishing.
- Lakoff, G. & Johnson, M. (1981). *Metaphor We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Gibbs, R. W. (1980). Spilling the beans on understanding and memory for idioms in conversation. *Memory & Cognition* 8/2: 149-156.
- Charteris-Black, J. (2002). Second language figurative proficiency: a comparative study of Malay and English. *Applied Linguistics* 23/1: 104-133.
- Littlemore, J & Low, G. (2006). *Figurative thinking and foreign language learning*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.

¹⁾本発表は科研「日本人英語学習者のメタフォリカル コンピテンスに関わる母語(日本語)知識の功罪」(18520469)で行った研究をベースにした。科研の援助に感謝し、本発表では源題より当該発表に関連する部分を抽出する。